

えひめ水産イノベーション地域だより

発行：公益財団法人 えひめ産業振興財団
えひめ水産イノベーション創出地域
TEL 089-960-1153 FAX 089-960-1105
E-mail : sakamoto@ehime-iinet.or.jp
http://www.ehime-iinet.or.jp/inove/

第12号 平成25年12月4日(水)発行

12月、師走となりました。

師走とは、本来旧暦の12月の別称ですが、今では新暦の12月のこととして普通に使われています。その由来は、僧侶(師は僧侶の意)が1年の納め、暮れの仏事で忙しく走り回るという平安期からの説が一般的です。

『師』の字源としては、『ロ』には「積み重ねる」「集める」、『巾』には「あまねく行動する」の意味があり、それから転化し「多くの人を集めた集団」または「それを率いる人」を指すようになったとされており、このため、軍隊の師団や階級の元帥などに『師』の字が使われています。また、「特別な資格や技能、学問を持つ人」の意味もあり、教師、医師、看護師、調理師など職業を現すときにも使われています。

「漁師」は、見えない海底の地形、複雑な潮の流れや雲の動き、空の色で天候を判断するなど特別な技能の持主。漁業者が「漁師」と呼ばれるのも納得です。

少し早いですが、皆さん、よいお年をお迎えください。来年は、この事業の中間評価の年、気持ちを引き締めて、円滑な事業の推進に取り組んで参りますので、引き続き、ご支援・ご協力よろしくお願いします。

2013公開セミナーの開催について

11月8日、宇和島市において地域イノベーション戦略支援プログラムの一環として「えひめ水産イノベーション2013公開セミナー」を開催しました。

セミナーは、世界で初めてクロマグロの完全養殖に導いた研究チームリーダーである近畿大学理事・名誉教授の熊井英水氏を講師に招き、「漁業資源存亡の機と養殖業」～クロマグロの完全養殖を中心として～と題して、1時間半にわたる講演を行い、大学、漁業団体、水産関連企業、金融機関、区市町等の広い職域の多くの方の参加をいただきました。

講演内容は、世界におけるクロマグロの資源状況、日本での養殖試験研究の歩み、種苗生産過程における課題、完全養殖達成までに至る経緯、完全養殖の意義と将来展望、21世紀COEプログラムとグローバルCOEでの取り組み、安心安全な養殖魚のイメージアップと販売戦略など養殖クロマグロに関する幅広い分野に

わたる講演で、宇和海の魚類養殖に関わる者にとって大いに参考となる講演でした。

「えひめ水産イノベーション」のHPにも掲載しておりますので、こちらも一読ください。

アドレスは<http://www.ehime-iinet.or.jp/inove/>



セミナーの講演会場の様子

演題の懸垂幕

講演「漁業資源存亡の機と養殖業」
「クロマグロの完全養殖を中心として」
近畿大学理事・名誉教授
熊井英水氏

人材育成講座の先進地視察について

11月開催の第7回「水産イノベーションスキル修得講座」は県外での先進地視察となり、受講生、人材育成従事者等21名が参加しました。

視察は、11月15・16日の2日間の日程で鳥取県境港市の境漁港、境港水産物地方卸売市場と周辺の水産加工会社を視察しました。

境漁港はベニズワイガニの日本一の水揚げ港で、カニグラタンやカニ爪フライを製造している北陽冷蔵(株)、ベニズワイガニの甲羅や殻からキトサンやグルコサミン等の健康食品を製造している甲陽ケミカル(株)などを視察訪問しました。



漁船から水揚げされるベニズワイガニ



セリのため市場に積み上げられたベニズワイガニ



市場で見かけた宇和海産の養殖ブリ